

令和4年度 住まい環境整備モデル事業  
【課題設定型・事業者提案型】  
提案内容の概要

事業名称

地域交流拠点作りを通して、  
障がい当事者、高齢者の  
安心と生きがいを探求する

- ・ 代表提案者：社会福祉法人 水仙福祉会



# 1. これまでの取組

## □ 水仙福祉会における知的障がい児者へのかかわり

- 水仙福祉会は1971年に知的障がい児の統合保育を始めてから50年以上障がい児者の支援にかかわってきた。
- この間、知的障がい者の領域で生活介護事業所、グループホーム、相談支援事業所、居宅介護事業所を運営し、主に重度の知的障がい者に関して(利用者の平均障がい支援区分5.5以上)、本人の主体性を尊重しながら、地域で生き生きと生活していけることを目標に総合的な支援を展開してきた。

## □ 支援の方針

- 重度の知的障がいの方が地域で生き生きと生活していけるためには、周囲の人たちと障がい者本人がよい関係を築いていけることが必要不可欠、という視点から、障がい者本人への支援に加えて、周囲の人たち(家族、地域)への支援を行う。このことによって支援者が両者との信頼関係を築き、両者の媒介役となって関係調整を行っていく(関係支援の視点)。
- これらを含めて以下の3点を支援方針としている。①本人の立場に立った本人主体の支援 ②ショートステイ等緊急援助も含めた家族支援 ③地域の課題を共に解決していく地域支援

## 2. 現状・問題意識

- どんなに障がいも重くても地域で生き生きと暮らしていける
  - ・ ことばで意思が伝えられない、問題行動が多い、といった理由で怖がられたり、いじめられたり、安心して生活できない障がい者は多い。我々支援者は本人の立場に立って本人の思いを理解し、本人が落ち着いて生活できるよう支援していくことが必要である。
- 障がい者本人にも親にも支援が必要
  - ・ 水仙福祉会で支援している利用者の多くが50代、60代に達し、親も80代で、親子ともに支援が必要ないわゆる8050問題に直面している。
  - ・ 利用者の自立に向けてグループホームの増設と親への支援が急務。
- 親が障がいのあるわが子を安心して見守れるために
  - ・ 利用者の親の中には、互いに依存しあい、わが子の自立を見守りにくい親も存在する。親子が安心して自立していける方法の模索が必要。
- 障がい者も高齢者も生きがいを持って生活できる場を作る
  - ・ 障がい者、高齢者共に自分自身を肯定しにくい人が多く、生きがいを持って生活できる場作りが必要。

## 2. 現状・問題意識

- グループホームのセンターハウスの役割を担う施設が必要
  - ・ 既存のグループホームと合わせて、定員が4住居29名となるため、グループホーム全体のセンターとしての役割を担う施設が必要。
- 地域の人々の同情によって認めてもらうのではなく、互いに認め合い共生できる地域社会を作る
  - ・ 障がいを持った人たちは彼ら自身のかけがえのない人生を送っており、健常者に存在を認めてもらうのではなく、対等な立場で良さを認め合える関係を作っていくことが必要。
  - ・ 一方地域には様々な生活上の問題が存在している。
  - ・ 共生できる地域社会を作っていくためには、障がい者自身が積極的に地域の人たちとかわり、地域の問題を共有していけることが必要。
  - ・ そのための第一のステップとして、障がい者の施設が引きこもり、ヤングケアラー、一人暮らしの高齢者家庭、生活困窮家庭等地域の課題を共有し、解決に向けての社会資源を提供する。その際、地域活動を行っている人たちと協働していくことが必要。

### 3. 提案内容

これらの課題を解決するため4階建ての建物を建築し(仮称 イーハトーブ風の家センターハウス)、1Fは地域交流拠点とセンターハウス、2F、3Fは障がい者のグループホーム、4Fは有料老人ホームとする。

#### [1階部分]

- 1階の開放部分はボランティア活動の場とし、地域の大学(大阪経済大学等)と連携してボランティアを募集、法人が地域活動の担い手(地活協、町会、区社協等)と協力しながら、子ども食堂の開設、引きこもりの人への学習支援、生活困窮やその他問題を持った家庭の相談を行う。
- 運営については、豊新地域活動協議会、東淀川区社会福祉協議会、大阪経済大学、水仙福祉会で定期的に運営会議を開催し、検討する。
- 活動内容についても地域のニーズをくみ取り、この運営会議で検討、決定していく。
- 1階の活動にグループホームや有料老人ホームの入居者が参加することによって、入居者が生きがいを感じると共に、地域の人と交流できる場とする。
- 1階部分を地域との交流、地域への情報発信拠点とし、これらの活動を通して地域の人々が障がいを持った人の価値を認め、差別をなくすことを目指す。

### 3. 提案内容

- この施設をこの地域のグループホーム(4住居)のセンター的なグループホームとして位置づけ、1階には福祉用具(機械浴の設備等)を備えた浴室を配置し、障がい者の高齢化にも対応していく。又、グループホームの職員が常駐して地域住民やボランティアにも対応しながら、4住居全体の入居者に対応する。

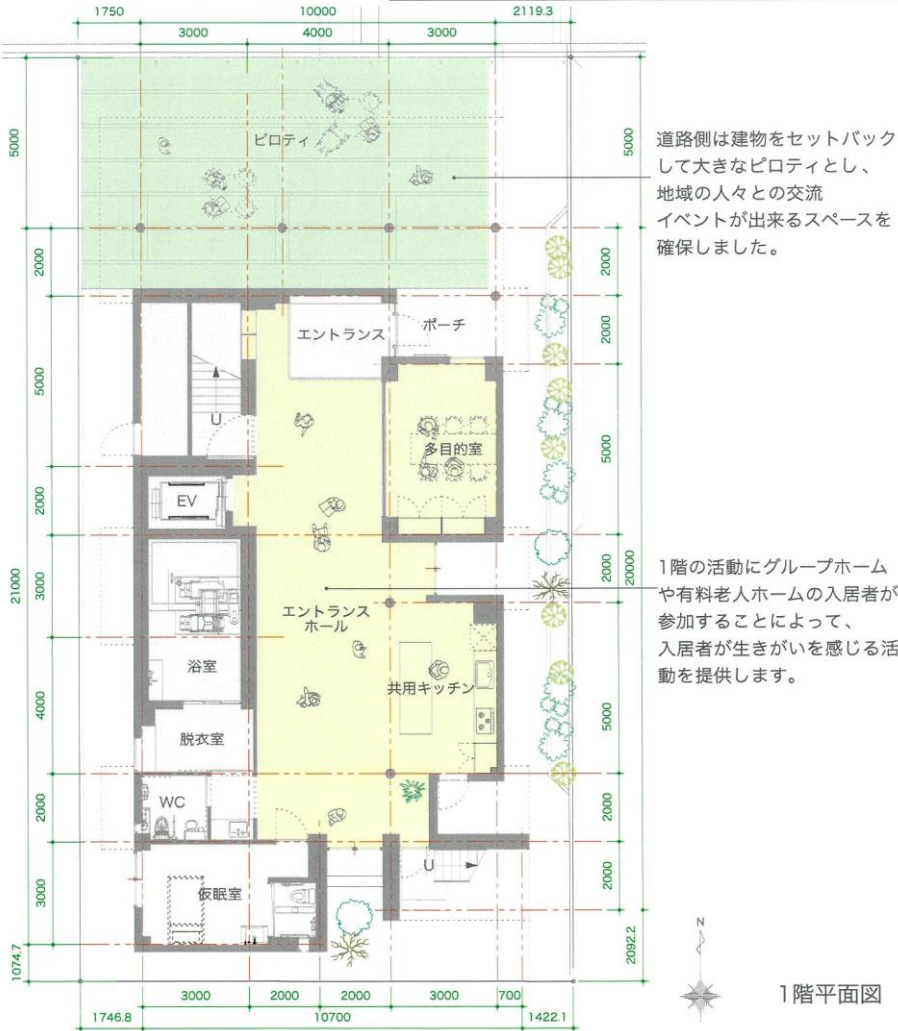
#### [2～4階部分]

- 2, 3階のグループホームは各々ベランダ付きのゆったりとした居室と仲間で集えるスペースからなり、各階に職員が常駐することで、重度の人に対し常時支援できる体制を作りながら、入居者が落ち着いて過ごせるようにする。
- 4階の有料老人ホームは主としてグループホーム利用者の親が入居し、本人を適切な距離で見守りながら生活できる環境を提供する。

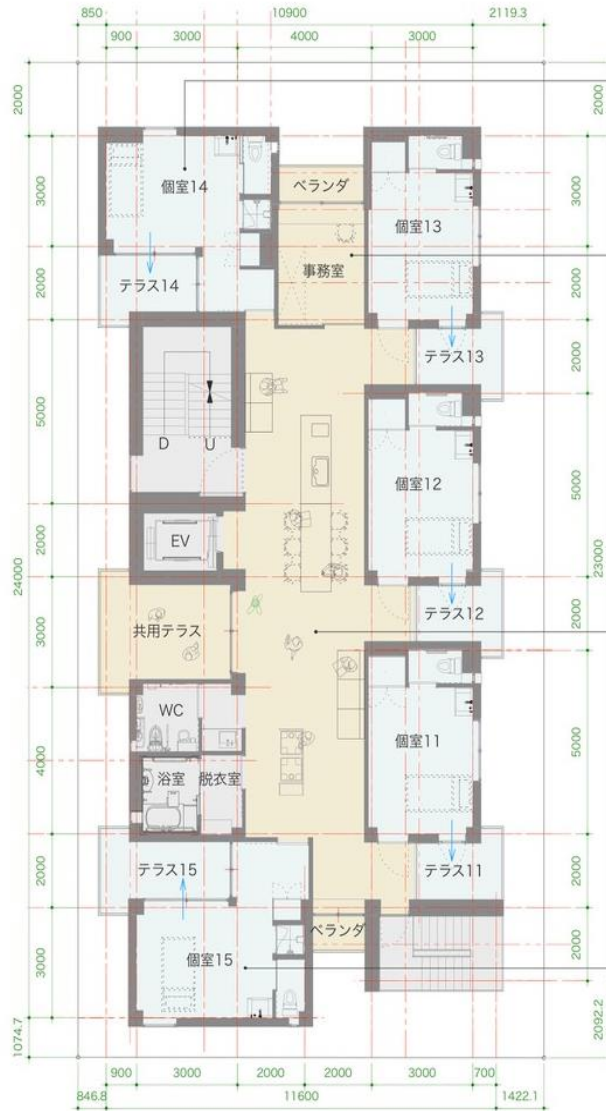
# 3. 提案内容

## イーハトーブ風の家センターハウス平面図

1階部分を地域との交流、地域への情報発信拠点とし、活動を通して地域の人々が障害を持った人の価値を認め、差別をなくすことを目指します。



# 3. 提案内容



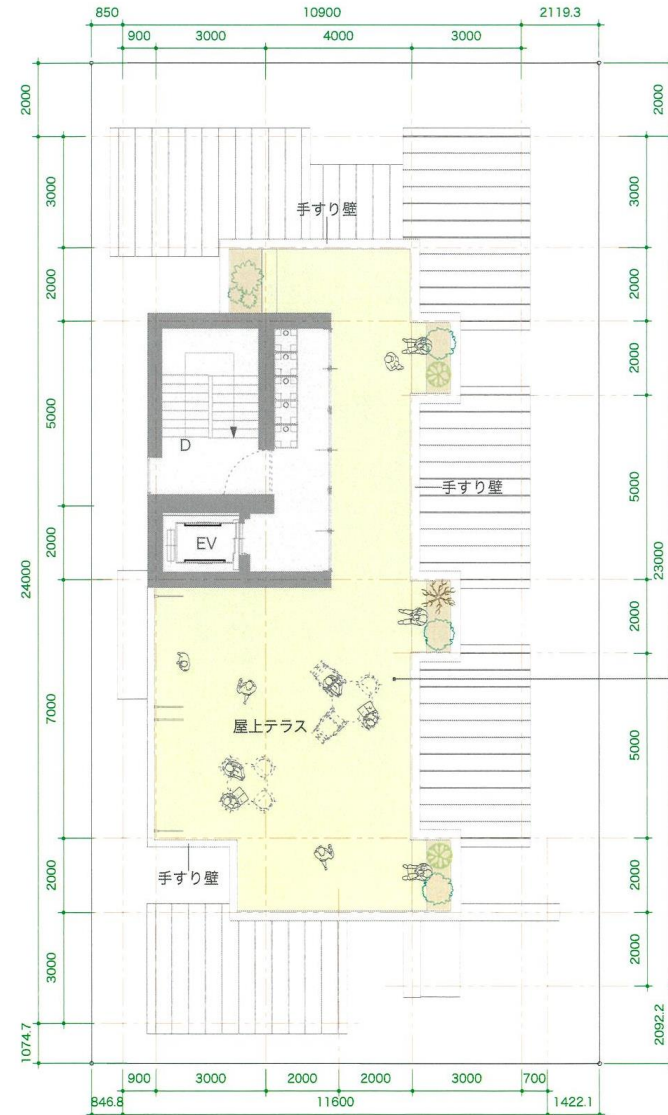
個室の大きさを広くし、  
様々な利用者に対応  
出来るようにしました。

各階に職員が常駐する  
ことで、常時介護できる  
体制を作ります。

中央に共有のLDKを配置し  
家具を点在することで、  
人の気配を感じられる  
空間となります。

個室の大きさを広くし、  
様々な利用者に対応  
出来るようにしました。

4階平面図  
(有料老人ホーム)



屋上にテラスを設け、  
洗濯をする生活の場であると  
共に、花壇などを作り、  
個人がくつろげる空間と  
しています。

屋上平面図



## 4. 期待される効果

### □ グループホーム

- 8050問題解決への一歩として大きな前進となる。
- 最重度の障がい者の意思決定を尊重し、安心して生活できる場を提供できる。
- ゆったりとして余裕のある広さを確保することにより、入居者が落ち着いて過ごせるようになる。
- センターとしての役割を持たせることによってグループホームの運営がしやすくなり、障がい者の高齢化にも対応できるようになる。

### □ 有料老人ホーム

- 障がい者を育てる親は共依存等難しい状況になることも多いが、そうなることを防ぎ、親が安心して障がい者を見守れる状況を作ることができる。

## 4. 期待される効果

### □ 地域交流・地域協同

- 地域との交流、地域への情報発信ができ、同時に引きこもり、ヤングケアラー、単身高齢者、困窮等地域の問題を解決する手段を提供できる。
- 地域との連携が進み、地域ぐるみで様々な問題を解決できる体制が整う。
- 障害者差別解消への道が開ける。

## 5. 検証方法

- グループホーム
  - ・ 利用者からの意見聴取、コミュニケーションが難しい人については行動等の評価を通して、満足の度合いについて調べる。
  - ・ 職員からの意見聴取を通してグループホームの運営内容、センターハウスの役割等期待される効果があったか検討する。
- 有料老人ホーム
  - ・ 老人ホーム利用者からの聞き取り調査により安心の度合いを明確にする。
- 地域交流・地域協同
  - ・ この社会資源の利用者数のカウント、地域住民へのアンケート調査を通して地域への影響の効果を検証する。
  - ・ 運営会議において定期的な見直しの中で効果についての検証を行う。